

議会報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 733-4
電兼 FAX 49-6373



6月定例会 6/9～23

6月定例会が6月9日から23日まで開会され、4億4千万円の補正予算など8議案を審議、可決しました。

主な歳出補正は

- ① コロナ禍で売上減少した事業所への支援金（国の対象外事業者向け） 2千5百50万円
- ② コロナ禍で収入が減少した指定管理者への補助 3千万円
- ③ 林地崩壊防止事業（昨年7月豪雨関連、崩土撤去費支援） 1億1千5百10万円
- ④ コロナワクチン接種事業（4回目追加接種） 1億8千3百64万円
- ⑤ コミュニティ助成事業（幡屋地区振興会除雪機2台） 1百60万円

定例会最終日の23日、石飛市長は閉会挨拶で50年を目標に脱炭素社会実現に向けて取り組む、と「雲南市脱炭素宣言」を表明しました。

参議院議員選挙 7/10

6月22日に告示された参議院議員選挙の投票日は7月10日に行われます。

この参議院議員選挙に要する雲南市の費用は3千8百万2千円（うち人件費は1千8百44万2千円）で本年度当初予算に計上されています。6月22日現在の雲南市の有権者数は3万1千2百32人、一人当たり単純計算で1千2百17円の経費

となります。投票に行っても行かなくてもこの経費は支出されます。市民・県民の意思を国政に反映するためにもこの経費を無駄に出来ません。投票日に都合で投票できない方には、期日前投票や不在者投票制度があります。また、今回から大東町など一部投票区の地区割や投票時間の変更があります。不明な点は雲南市選挙管理委員会（840・1090）にお尋ねください。なお、期日前投票所は左表の通りです。

会場	設置期間	時間
雲南市役所本庁舎	6/23(木) 7/9(土)	8:30 20:00
各町総合センター	7/1(金) 7/9(土)	8:30 20:00

完成間近

雲南加茂スマートインターチェンジ

平成29年に事業決定、令和2年から工事が始まった雲南加茂スマートインターチェンジ工事が終盤を迎え、その全容が見えてきました（下段写真右）。本年夏の完成を目指し、急ピッチで仕上げ工事が進められています（供用開始日は参議院議員選挙後に公表予定）。なお、このインターチェンジはETC搭載車専用です。

また、隣接する企業団地の造成も進められています。神原企業団地第1期2区造成工事および第2期A工区造成工事が本



雲南加茂スマート IC と開発が進む神原企業団地



完成間近の IC。IC の奥が尾道松江線（左が三刀屋木次方面）

年度から始まります。南加茂企業団地第3期造成工事は、ほぼ完成し令和5年1月から分譲開始予定です。

神原企業団地および南加茂企業団地は IC に隣接し交通至便です。立地条件を活かした産業政策を進めなければなりません。

一般質問の主な論点

6月定例会では19人の議員中、17人の議員が一般質問を行いました。多かった論点は、

- ① コロナ禍における経済支援策
- ② その他のコロナ対策
- ③ 島根原発再稼働問題
- ④ 公共施設等総合管理計画
- ⑤ 指定管理者制度
- ⑥ 消防団
- ⑦ キャンプ場施設整備

等でした。未だ終息の目途が立たないコロナ関連の質問が一番多かったことに続き、丸山島根県知事が島根原発2号機再稼働に関し最終判断を下したことから原発関連の一般質問が続きました。消防団については、操法大会に向けた厳しい訓練や団員確保の難しさなどが取り上げられました。市民の関心事が一般質問の順番に反映されているように見受けました。

たたら文化の重要性

たたらは、古代から近世にかけて全国で行われていた製鉄法ですが、近代製鉄法に代わり急速に寂れてしまいました。しかし、奥出雲地方には「菅谷たたら山内」などの遺構はもとより、たたら操業を行える人材が今でも存在している、という点で非常に重要な地域であることから平成28年には文化庁から日本遺産の認定を受けました。たたらは原材料となる砂鉄、そして燃料となる木炭はいずれも当地方で自給できるものです。SDGs が叫ばれる時代を先取りし環境にやさしい製鉄法です。たたらは5年前の映画「たたら侍」に続き、今年5月にも短編映画「たたら」の撮影が本市内で行われるなど、たたらは世界から注目を集める地域の誇り、宝です。中林は今回の一般質問で、このたたらについて取り上げました（裏面）。

今回の一般質問のテーマは「たたら」と「観光」です。緊急性のあるテーマではありませんが、雲南市の10年後、30年後を見据え、取り組むべきテーマです。



たたらと鉄の歴史村について

問

鉄の歴史村地域振興事業団（以下、鉄の歴史村）は市が6割出資する三セクだ。厳しい経営状況にある鉄の歴史村の運営および「鉄の歴史博物館」をどうするか。

答（市長）

火災や赤字運営が続いたことから設立当初と比べ基本財産が大幅に減少した。学芸員の採用や吉田総合センター長を理事として派遣するなど体制強化を図っている。指定管理のあり方や業務委託料については、鉄の歴史村の考えを聞き丁寧に対応する。博物館は、今後も鉄に関わる歴史資料の収集・保存、情報発信に努めていく。

問

鉄の歴史村から市が譲り受けた「和鋼生産たたら体験交流施設」を今後どうするか。

答（産業観光部長）

近代たたら操業や小だたら操業を行い、見学や体験などと組み合わせながら維持・活用する。

問

昨年3月で閉館となった鉄の未来科学館をどうするか。

答（吉田総合センター長）

入館者数の減少、空調など施設の維持管理に多額の費用が見込まれる。当初の設置目的に沿った再生は困難と判断している。

問

東工大名誉教授で鉄の歴史村の理事でもある永田先生によれば、たたらは小学生から社会人まで段階に応じた学びができるそうだ。たたらを学校教育に取り入れることについて所見を伺う。

答（教育長）

たたら製鉄は極めて重要な文化遺産と認識。「永田式たたら」なら短時間でたたら製鉄を体験可能、こうしたプログラムを取り入れれば全市への展開も期待できる。ふるさとの歴史・文化への理解を深めることはキャリア教育の4本柱のひとつ、様々な形で学べるようにしていきたい。

問

鉄の道文化圏推進協議会には毎年150万円余りが予算化、支出されているが成果が見えない。活動状況、今後について伺う。

答（市長）

安来市、雲南市、奥出雲町の2市1町で構成し、日本遺産の登録、たたら文化の啓発、たたらガイドの養成や情報発信に取り組んでいる。今後も2市1町で連携して取り組んでいく。

問

雲南市たたらプロジェクト会議の活動状況と成果について伺う。

答（政策企画部長）

本市に来訪された方々にたたら文化を紹介する人材育成のため計9回の養成講座を開催した。また、たたらフォーラムを開催し、市民にたたら文化を知り、理解を深めるための取り組みを行っている。

問

たたら産官学の連携について伺う。

答（市長）

たたら製鉄の技術や文化、関連するあらゆる分野において調査・研究は必要だ。従って、学術機関との連携は重要なものと認識。こうして高めた価値を産業や観光につなげ、そして広く地域全体の発展につなげるためには民間との連携も欠かせない。

問

たたらを活用した体験型観光、民間との連携により地域の活性化を図るべきでは。

答（市長）

たたらは教育的な効果も含め、観光振興の有効なツールとなり得ると考えている。けら出しやナイフづくり体験などがあり、

今後、鉄の歴史村、観光協会や観光業者、地元事業者の（株）たなべたたらの里等の協力を得て進めていきたい。

問

たたら及び関連施設を世界遺産として登録を目指してはどうか。

答（市長）

世界遺産へのチャレンジについては、その実現性や指定を受けた場合のメリット、デメリットも含め検討する必要がある。石見銀山のように多くの来訪者によって、その良さが失われるようなリスクがある。継続するためのコストも必要だ。地域の皆さんの総意として世界遺産を目指そうとするなら前向きに進むべきだ、もししばらく議論の経緯を待ちたい。

問

広域観光について

「あめつち」の木次線入線は平日が予定されている。観光に生かせるか。

答（政策企画部長）

「あめつち」の乗客は関西および岡山方面から。雲南の豊かな食、温泉、神話、たたらなど地域の魅力を発信することで観光による経済効果が見込める。

問

広域観光の意義と必要性について伺う。

答（市長）

観光はいかに多くの国内外のお客様に来ていただくか、そういう視点で広域の意義はある。残念ながら本市にはメジャーな観光資源が乏しいので、出雲大社や松江城など認知度のある近隣自治体との連携は必要不可欠だ。

問

本市が取り組もうとしている広域観光の「広域」とはどのような概念か。

答（産業観光部長）

本市とつながりのある行政区域を指している。木次線やたたらを軸とする場合、ヤマタノオロチなど神話を軸とする場合、

など軸となるテーマによって様々な組み合わせが考えられる。

問

その「広域」の中にはどのような観光資源があり、どう活用していくか。本市の発展にどのように寄与させるか。

答（市長）

安来市、奥出雲町とで構成する鉄の道文化圏推進協議会では、たたら歴史や文化を、出雲市、奥出雲町で構成する出雲の国・斐伊川サミットではトロッコ列車を、中海圏域と奥出雲町とで構成する斐伊川水系生態系ネットワークでは水鳥との共生を、54号線沿線自治体で取組んでいるやまなみ街道サイクリングなどがある。関係自治体と連携し、観光振興と地域の活性化を進めていきたい。

問

広域観光を進めるにあたり関係諸団体とどのような連携をとるか。市長は各団体の「長」も務めているがどう考えるか。

答（市長）

観光振興には、①観光資源の磨き上げ、②効果的な宣伝、③魅力ある商品の企画実施、の3つの視点がある。まず広域観光を推進する協議会等でコンセプトをつくり、各自治体がそれぞれ商工会や観光協会と連携して行っていくべきものだ。自治体同士の調整や人材育成が必要であり、長として関わっていく。

問

市長は中海宍道湖大山圏域市長会への参加希望を表明している。意図は何か。

答（市長）

雲南市の魅力をPRするためには近隣との広域連携が必要だ。また、その地域には空港や港湾が立地しており、人の流れという観点からも連携が必要だ。

収まりそうでなかなか収束しない今回のコロナ。経済活動が少しずつ緩和されてきましたが気が許せません。向暑のみぎり、ご自愛くださいませ。（たかし）